

修せざるにはあらはれず

定光寺 乙川文英

平成二十九年六月二十八日 加茂法話会

特派布教師のお説教から

「合掌は坐禅である」

「手を合わせるところ、そこに仏様はおいでになる」

「今日もおだやかに」と口に出して誓う

聞思修の慧

実智慧の者は、則ち是れ老病死海を渡る堅牢の船なり、亦た是れ無明黑暗の大明灯なり、一切病者の良薬なり、煩惱の樹を伐るの利斧なり。是の故に汝等、当に聞思修の慧を以て、而も自ら増益すべし。若し人智慧の照あれば、是れ肉眼なりと雖も、而も是れ明見の人なり。是れを智慧と名づく。（『仏遺教経』）

七つには修智慧。聞思修証を起すを智慧となす。（『正法眼蔵』八大人覚）

修せざるにはあらはれず

諸仏如来ともに妙法を単伝して、阿耨菩提を証するに、最上無為の妙術あり。これただほとけ仏にさづけてよこしまなることなきは、すなはち自受用三昧、その標準なり。この三昧に遊化するに、端坐参禅を正門とせり。この法は、人々の分上にゆたかにそなはれりといへども、いまだ修せざるにはあらはれず、証せざるにはうるることなし。（『弁道話』）